

# 令和元年度 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年3月

事業所名: ゆりかご

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		スペースが狭いため、活動により配置を変え、スペースを作っている。	
	②	職員の配置数は適切である	6		基準以上に配置	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	十分に構造化されているわけではないが、いらぬ物をなくし、集中できるようにしている。配置等の工夫をしているが、構造化という点では、いまだ不十分。絵カードを使い、視覚的に分かりやすいようにしている。	空間を上手に使い視覚的に見通しが持てるよう配置していく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	2	整理整頓が必要と感じる。ロッカーが小さいため、一人一人のスペースが狭くなっている。掃除、消毒を丁寧に行い感染症の拡大防止を心がけている。	教室の棚の整頓や片付け等、常に意識する。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2	随時行っている。話し合う事で次につながりっていく。打ち合わせでは職員が話しやすい環境を心がけている。	打ち合わせの時間を増やし、質の向上に努めていく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	29年度よりガイドラインに沿った評価を行い、集計し、保護者に配布。業務改善につながるよう職員間で検討。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	29年度よりガイドラインに沿った評価を行っている。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6	内部監査を行い、業務改善につなげている。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		年間研修計画を法人で作成している。	研修報告を時間をかけて行っていく、全職員が共有できるようにする。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	3	終礼で日々の状況を確認している。週案の打ち合わせ後、ケース会議を行い、分析をしている。全職員でアセスメントを行い計画を作成できるとよい。	子どもの課題を職員で話す場を増やす。研修日を設けていく。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	3	K式検査の結果や報告を活用する。医療の同行等を行い、支援につなげている。現在行っている個々の発達の状況をアセスメントツールにしていける事が出来たらいいと思う。	発達の状況の書式をより分かりやすいものにしていく。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	アセスメント、定期的なモニタリングを行い、ニーズに沿った支援計画を心がけている。(発達支援・家庭支援・地域支援)	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			計画の見直しを丁寧に行っていく。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		計画的に実施。季節に合わせたプログラムを実施。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		こころの安定を図り、プログラムを作成している。五感を使った遊びを考え、子どもたちが楽しむことができるよう心がけている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	1	計画に沿って活動を組み立てている。	職員間での丁寧な確認や報告が必要。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	朝礼で活動、その日の流れ等確認をしている。	担任同士、正確に確認できる時間を作っていく。目で見分けるようにボードなどの活用もしていく。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	終礼で一人一人の様子を伝え、共有をしているが、時間の確保が難しい。	一人一人が記録の確認ができる時間の確保を検討していく。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	2	毎日児のケースを記録し、職員で共通認識できるようにしている。徹底といわれると十分ではない。	記録を活用し、原因を探り探りトラブルを減少する。記録をどの職員も打ち込めるようにしていく。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	1	年に3回の面談を実施。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		児発管や担任が参加している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		連絡会へ参加し、情報の共有、伝達をしている。他機関を連絡を取り、情報共有や相談等を行っている。	他機関との連携をさらに密にし、ともに支援していく。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	㉕	移行支援として保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		情報共有を行い、スムーズな移行になる様に心がけている。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		かけはしシートを作成し、学校との話し合いをしている。また、事前に様子を伝える事もある。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	連絡会、研修等に参加し、情報共有や勉強をしている。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	1	年長児が保育園に数回交流に行っている。	定期的に行っていく事ができるよう検討していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		5	定期的に関われている事業所連絡会への参加をし、情報共有提供をしている。	地域へつながるよう情報を得たり、参加をしていく。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		毎日の連絡ノートで、園での様子を伝えている。また、送迎時に口頭でも伝えるようにしている。	
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	1	親子教室、懇談会等実施し、保護者との話す場を提供している。	懇談会の時間を増やし、テーマを決めて進めていく。
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		説明会、入園時等で説明をしている。いつでも閲覧できるように玄関に置いている。	
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		同意を得ている。毎回丁寧に説明をしている。	
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	相談しやすい環境を心がけている。	家庭でできる支援を明確に伝えていく。
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		父母会は現在ないが、懇談会や親子行事を設け、保護者同士の交流の場を作るようにしている。	親子での行事を増やし、話し合いができる場を提供していく。
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		行っている。時間や都合を聞き、申し入れがあった日に対応するよう心がけている。	適切な対応ができるよう他機関との連携に努める。
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		月1回のおたよりを配布。クラスでの様子も掲載している。行事の内容等の手紙配布をしている。	
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	6		同意書を交わすとともに、都度保護者への連絡確認を行っている。	
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		信頼関係の構築に努めている。	
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地に開かれた事業運営を図っている	5	1	自治会に加入し、近隣のまつりに参加している。法人として地域の方を招待した行事を行っている。	さらに地域との関係を作っていく事ができるよう努める。清掃活動などに積極的に参加していく。
	非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		利用説明会にて説明。
④2		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		月1回避難訓練を行っている。	
④3		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		入園時、確認を行っている。変更のある場合はその都度報告をお願いしている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		保護者と確認をしている。 医師からの検査結果を提出してもらっている。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハットマップ作成やヒヤリハットの見直し、共有をしている。	同じヒヤリがないよう原因、対応等見直しをする。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1	研修への参加し、他機関への連絡、情報共有を行っている。	研修で学んだことに対し、職員間で共有できるようにしていく。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		運営規定、契約書に記載をし、保護者へ説明をしている。 打ち合わせ時に身体拘束について職員間でも共通理解を図っている。	必要に応じて支援計画に記載をしていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。